

そして、「若い人たちにとっても権利

として、「自分は働けるから倍で当たり

から「農業」ということを営みとしてきたこ

の国の人たちは知っている。無ければ

出すことができる。暑い土地に生まれ

た人たちは、暑さを生かして何が作れ

るかを考える。寒い土地に生まれた人

たちは、寒さを生かして何が作れるか

を考えることができる。そうやって、

自分の与えられた土地で何を生み出す

ことができるかを、考えてきたから奪

い合わなくてよかつた。譲り合えるよ

うになつた。交換ができるようになった

た。多様性を味わえるようになったの

だ。」

私自身は、そのことをこのコロナ禍

で強く感じました。

一年少し前に、この国にも醜い奪い

合いのようなものが起こっていました

た。マスクがなくなつたからです。自

分だけは、何とかして手に入れたい。

そうやって奪い合う。そんなことが起

きました。

しかし、ある時気づいたのです。「無

ければ作れば良いのではないか」

あちこちでマスクを作るようになり

ました。家庭でさえ作るようになり

ました。自分に作ることができると知

つた瞬間、それらを譲り合えるようにな

る。その譲り合いによって繋がるよ

うになつていく。融和が生まれてくる。

「手作りマスクはこの国が発信で、世

界的にも広がつたのでは」と言う方も

います。

その時には力の強い者、あるいは発

信力の強い者、勝つた者、そういう者

が

金次郎はこんなふうにも例えます。「私

たちが恩返しと考えるとき、それをそ

のまま返すわけではなく、隣から鉄を

借りて農作業が終わることができた。

たちが手に入れることになり。だ

から奪い合い、競争ということが起

るので。

「農業」ということを営みとしてきたこ

の国の人たちは知っている。無ければ

生み出せばいい。そして私たちが生み

出すことができる。暑い土地に生まれ

た人たちは、暑さを生かして何が作れ

るかを考える。寒い土地に生まれた人

たちは、寒さを生かして何が作れるか

を考えることができる。そうやって、

自分の与えられた土地で何を生み出す

ことができるかを、考えてきたから奪

い合わなくてよかつた。譲り合えるよ

うになつた。交換ができるようになった

た。多様性を味わえるようになったの

だ。」

私自身は、そのことをこのコロナ禍

で強く感じました。

一年少し前に、この国にも醜い奪い

合いのようなものが起こっていました

た。マスクがなくなつたからです。自

分だけは、何とかして手に入れたい。

そうやって奪い合う。そんなことが起

きました。

しかし、ある時気づいたのです。「無

ければ作れば良いのではないか」

あちこちでマスクを作るようになり

ました。家庭でさえ作るようになり

ました。自分に作ることができると知

つた瞬間、それらを譲り合えるようにな

る。その譲り合いによって繋がるよ

うになつていく。融和が生まれてくる。

「手作りマスクはこの国が発信で、世

界的にも広がつたのでは」と言う方も

います。

その時には力の強い者、あるいは発

信力の強い者、勝つた者、そういう者

が

役場総務課危機対策係 574-2221

変更計画案の閲覧場所

- ①役場庁舎1階ロビー(8時30分~17時)

- ②役場大津支所(8時30分~17時)

- ③える夢館1階ロビー(9時~20時)

閲覧できる書類

- ①豊頃町地域防災計画【本編】改定案

- ②豊頃町地域防災計画【地震・津波災害対策編】改定案

- ③豊頃町地域防災計画【資料編】改定案

- ④豊頃町水防計画 改定案

意見の提出方法

▽氏名、住所、連絡先を明記のうえ、書面(様式自由)にて、持参または郵送いただくか、FAX、電子メール等で提出願います。

提出先▽役場総務課危機対策係(〒089-5392 豊頃町茂岩本町1-25番地) FAX(574)2750 bosai@toyokoro.jp

つまり、生み出す創造する力を持つ

ている。一人一人は生み出すことができ

るので。一人一人は生み出すことができ

一人ひとりが主役として目覚め 幸せの増産(報徳実践)で 豊かな未来創造へ!!



どんなときも '一步' を!



茂岩俳句会

豊寿文芸

迷い事何とかなるき初暦

お年玉ニヤリと孫のご挨拶

ひと手間の母のおでんの味深き

縁起よき花器に千両晴れやかに

寒卵割ればつるんと黄身二つ

歌を聞く刻の過ぎ行き除夜の鐘

われもまたひとり安堵のひなたぼこ

冬夕焼褌せて溜息のみ残る

迷い事何とかなるき初暦

お年玉ニヤリと孫のご挨拶

ひと手間の母のおでんの味深き

縁起よき花器に千両晴れやかに

寒卵割ればつるんと黄身二つ

歌を聞く刻の過ぎ行き除夜の鐘

われもまたひとり安堵のひなたぼこ

冬夕焼褌せて溜息のみ残る

起き抜けの足裏で知るや寒の入り

初鏡女盛りへ紅をひく

来客なしお洒落心の赤セーター

生きている証を残す日記買う

牛舎に灯二時間遅れて初日の出

北斗へと繋がるリフト夜間スキー

この家に慣れしか嫁の頬被り

過疎の地に新成人は決意せり

起き抜けの足裏で知るや寒の入り

初鏡女盛りへ紅をひく

来客なしお洒落心の赤セーター

生きている証を残す日記買う

牛舎に灯二時間遅れて初日の出

北斗へと繋がるリフト夜間スキー

この家に慣れしか嫁の頬被り

過疎の地に新成人は決意せり